

四国はひとつ、ひとつ

四国経済連合会常任理事（株式会社高知銀行頭取）

伊野部 重晃



高知県は明治維新の廃藩置県により、明治4年に高知藩から高知県になりました。その後、明治9年に名東県（香川県と徳島県が合併した県）より阿波を編入しています。明治13年に徳島県が再置され高知県から分離し、今の高知県がスタートしています。

徳島県を編入した期間は4年に満たないので、高知県民は徳島県と一緒にだったという歴史的な事実はあまり知られていないと思います。編入し分離した理由は分かりませんが、四国4県の県民性はそれぞれ異なっているとされており、地理的歴史的にみても一緒にやるのは無理があったのではないのでしょうか。

四国三郎吉野川の上流の高知県に早明浦ダムがあります。このダムの記念碑に当時の高知県知事の溝渕氏が「四国のいのち」と揮毫していますが、当初の案は「四国はひとつ」だったようです。溝渕知事が、四国は一つになっていない、ひとつ、ひとつだといって「四国のいのち」に変えたというエピソードが残っています。

最近、地方自治の効率化を図るため、平成の大合併が実施され市町村の数が大きく減り

ました。次の議論として道州制がでてきます。道州制は机上で考えるとメリットも多いのですが、遷都の議論と同じように、盛りあがっては消えを繰り返している感じがします。市町村合併は身近で切実な点もありましたが、道州制は早急にやらなければならないという切迫感が薄いのではないのでしょうか。

また、高知県は弱小県ですし、地政学的にみても州の中心になる可能性はなく吸収される立場ですので、よけい消極的になっているようです。道州制の議論の前に高知県を豊かにするというのが大切ではないかと思います。

高知県は四国山地によって守られてきましたが、高速道路の開通により県外から攻め込まれています。これをはね返すべく、高知県は産業振興計画を策定し昨年からは実行に移しています。PDCAサイクルを廻すことにより、具体的な取り組みを行っているところです。

高知県が豊かになり広域流通が盛んになれば、四国はひとつひとつからひとつになっていき、連帯が強まるのではないかと期待しています。